

緩和ケアとは

Q: 緩和ケアとは

A: 病気が進行した患者に対する終末期医療のみのイメージが強いかと思いますが、世界保健機関 (WHO) では、「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患により生じている問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確な方針と対処(治療・処置)を行うことによって苦しみを予防し和らげることで、生活の質を改善するアプローチである」と定義しています。

現在では、患者やその家族に対して早期に緩和ケアを始める事が重要であり、その結果患者の生命予後も延長し家族の負担も軽減すると考えられています。

Q: 緩和ケアの必要性

A: がんなどの生命に影響を及ぼす病気にかかると、患者自身には①身体的苦痛(痛み、他の身体的症状、日常生活への支障など)、②精神的苦痛(不安、いらだち、うつ状態など)、③社会的苦痛(仕事上の問題、家庭内の問題、経済的な問題など)、④スピリチュアルな苦痛(生きる意味への問い、死への恐怖、自責の念など)のように予想していなかった多くの問題に直面します。また、闘病を支えている患者家族も同様な辛さを伴いながら生活していきます。

これまでに挙げた苦痛を緩和するには、医師や看護師のみでは対応出来ません。

実際の医療現場では、薬剤師、心理士、栄養士、ソーシャルワーカー、医療事務職などの多職種と連携しながらチームで症状緩和に取り組んでいます。

Q: 緩和ケアの具体的な内容

例えば、痛みが増強してきた場合には、体位の工夫や鎮痛効果の高い医療用麻薬などの導入、食欲低下や嚥下困難な時には食事内容の変更等を検討します。

患者や患者家族の精神的、スピリチュアルな問題には心理士や聖職者(神父、牧師、お坊さんなど、チャプレン(病院付き聖職者))との面談、経済的な問題にはソーシャルワーカーや医療事務職との相談、入院生活に潤いを与えるためにはボランティアの協

力が必要になります。医療者が患者の抱えている全ての問題を解決する事が難しい現状もありますが、多職種でのチーム医療を行い患者と患者家族の苦痛や負担が少しでも和らぎ、穏やかな日々が過ごせるように努めています。

その他:

- ① 「何を大切にしたいか」 は、患者・家族によって異なります。治療や療養の場所に関しても、患者や患者家族の希望に沿えるよう調整していくことが大切です。
- ② いつでも、どこでも、切れ目のない質の高い緩和ケアを受けられることが大切である
- ③ 緩和ケアは、提唱した地域(国)や宗教との関わり合いによりホスピスケアと表現される事もありますが、日本では同じ意味合いで用いられています。